

2025年度業務実績報告書

提出日 2026年1月5日

1. 職名・氏名 特命教授・米田 誠

2. 学位 医学博士、専門分野 脳神経内科学、授与機関 新潟大学、授与年 1990

3. 教育活動

(1) 講義・演習・実験・実習
① 担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 臨床病態学Ⅰ（1単位 毎年開講）看護学科1年生（2025年度）
② 内容・ねらい 適切な看護を展開するために必要な疾患の病態を把握する能力を修得することを目的とし、各種の疾病に関する基礎的知識と臨床病態を講述した。
③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫 スライド・配布資料・課題を、事前に Google classroom にアップロードし、事前学習や復習に役立ててもらった。対面講義時には、事前配布のスライドを提示しながら学習効率の向上を行った。Zoom による遠隔授業においては、スライドを共有しながら双方向性の講義を行った。
① 担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 臨床病態学Ⅱ（1単位 毎年開講）看護学科1年生（2025年度）
② 内容・ねらい 適切な看護を展開するために必要な疾患の病態を把握する能力を修得することを目的とし、各種の疾病に関する基礎的知識と臨床病態を講述した。
③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫 スライド・配布資料・課題を事前に、Google classroom にアップロードし、事前学習や復習に役立ててもらった。対面講義時には、事前配布のスライドを提示しながら学習効率の向上を行った。Zoom による遠隔授業においては、スライドを共有しながら双方向性の講義を行った。 B 型肝炎患者による特別講義を実施した。これは、厚労省より医療系大学での実施を強く推奨している講義である。
【ゲストスピーカー 1人】
① 担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 臨床病態学Ⅲ（1単位 毎年開講）看護学科2年生（2025年度）
② 内容・ねらい 適切な看護を展開するために必要な疾患の病態を把握する能力を修得することを目的とし、各種の疾病に関する基礎的知識と臨床病態を講述した。
③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫 スライド・配布資料・課題を事前に、Google classroom にアップロードし、事前学習や復習に役立ててもらった。対面講義時には、事前配布のスライドを提示しながら学習効率の向上を行った。Zoom による遠隔授業においては、スライドを共有しながら双方向性の講義を行った。
① 担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 臨床病態学Ⅳ（1単位 毎年開講）看護学科2年生（2025年度）
② 内容・ねらい 適切な看護を展開するために必要な疾患の病態を把握する能力を修得することを目的とし、各種の疾病に関する基礎的知識と臨床病態を講述した。
③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫 スライド・配布資料・課題を事前に、Google classroom にアップロードし、事前学習や復習に役立ててもらった。対面講義時には、事前配布のスライドを提示しながら学習効率の向上を行った。Zoom による遠隔授業においては、スライドを共有しながら双方向性の講義を行った。

特別講義として、①道川祐市氏（国立量子研）による「放射線看護の人材育成」、②池田和美氏（福井大遺伝診療部）による「遺伝看護①」、③渡邊 淳教授（金沢大遺伝診療部）による「遺伝看護②」を行った。

【ゲストスピーカー 3人】

① 担当科目名（単位数） 主たる配当年次等

微生物・免疫学（1単位 毎年開講）看護学科2年生（2025年度）、オムニバス。

② 内容・ねらい

微生物・免疫学では、将来、看護師、保健師、養護教員として医療・保健に従事する学生が、知っておいてほしい感染症の基礎的知識と臨床上の問題点と対応について講義した。

また、病原体に打ち勝つ体内のメカニズムが免疫である。免疫が弱くなり様々な感染症が引き起こされる。逆に、免疫が過剰になると、アレルギーや膠原病といった全身の病気を発症する。免疫の基礎的メカニズムとその破綻による疾病についても講義した。

③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫

スライド・配布資料・課題を事前に、Google classroomにアップロードし、事前学習や復習に役立ててもらった。対面講義時には、事前配布のスライドを提示しながら学習効率の向上を行った。

① 担当科目名（単位数） 主たる配当年次等

臨床薬理学（1単位 毎年開講）看護学科2年生（2025年度）、オムニバス。

② 内容・ねらい

薬による副反応や健康被害に関して、歴史的背景も含めて講義を行った。

③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫

スライド・配布資料・課題を事前に、Google classroomにアップロードし、事前学習や復習に役立ててもらった。対面講義時には、事前配布のスライドを提示しながら学習効率の向上を行った。

① 担当科目名（単位数） 主たる配当年次等

疫学（1単位 毎年開講）看護学科2年生（2025年度）。

② 内容・ねらい

疫学の歴史・意義、疫学に関する健康指標、研究デザイン、信頼性と妥当性、統計解析について講義し、実際の事例等も紹介した。

③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫

スライド・配布資料・課題を事前に、Google classroomにアップロードし、事前学習や復習に役立ててもらった。

① 担当科目名（単位数） 主たる配当年次等

卒業研究（3単位 毎年開講）看護学科4年生（2025年度）、オムニバス。

② 内容・ねらい

授業や実習経験を踏まえ、医療・健康に関する現象について研究課題を明確にしたうえで、文献検討、観察・調査・実験などの研究方法を用いて論文作成を指導した。研究は①課題と関連のある文献レビュー、②研究テーマの明確化、③研究方法の決定、④研究計画書の作成、⑤データ収集、⑥データ分析、⑦論文作成、⑧研究発表のプロセスを踏んだ。

③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫

「遺伝診療に関する意識調査」に関して、Google Formを用いたアンケート調査を実施した。統計処理は、SPSS（ver. 26.0）を用いた。

① 担当科目名（単位数） 主たる配当年次等

福井を学ぶ（2単位 毎年開講）全学（2025年度）、オムニバス。

② 内容・ねらい

福井県立大学で学び始めた新入生が、福井という地域の特性について幅広く学ぶとともに、福井が有する多様な資源を世界的な視点のなかに位置づけ、地域において本学が果たす役割を理解する。特に、「福井の医学史」に関する講義を行った。

③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫

スライド・配布資料・課題を事前に、Google classroomにアップロードし、事前学習や復習に役立ててもらった。

① 担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 成人・老年保健学特論（4 単位 毎年開講）看護福祉学研究科（修士）1 年生（2025 年度）
② 内容・ねらい 成人・老年期の個人あるいは集団の健康維持・増進の全体を、さらにはその疾病、障害の予防・支援の全体を最新の臨床病態から総合的に追求し理解を深めるとともに、論文の内容を理解し、また批評できる能力を養うことを目標とする。加齢に伴う様々な身体的・生理的老化現象や特有の臨床病態を講述した。特に、認知症は看護社会福祉の面から重要な問題の一つであり、疾病の病因・症状・治療・予防について最新の知識を提供するとともに、院生からも関連する論文の内容を紹介解説し、参加者全員で論文内容について批評を加えた。
③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫 Zoom による遠隔授業において、スライドを共有しながら双方向性の講義を行った。特別講義として、市川 寛教授（同志社大）による「長生きのメカニズム」を行った。 【ゲストスピーカー 1 人】
① 担当科目名（単位数）主たる配当年次等（2025 年度） 環境保健学特論（2 単位 毎年開講）看護福祉学研究科（修士）1 年生（2025 年度）
② 内容・ねらい 環境と健康・疾病に関する問題について両者の関係について理解を深めるため、近年急速に変貌している様々な環境要因が正常範囲を逸脱した場合に発生する健康障害や疾病について臨床医学的な見地から講述・討論した。また、健康障害や疾病から環境要因について評価を加え、最新の科学的根拠に基づいた健康増進・疾病予防の可能性を探った。
③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫 Zoom による遠隔授業において、スライドを共有しながら双方向性の講義を行った。
① 当科目名（単位数） 主たる配当年次等 研究倫理特論（2 単位 毎年開講）健康生活科学研究科（博士後期）1 年生（2025 年度）、オムニバス。
② 内容・ねらい 研究者として誠実で責任ある研究を推進していくために必要な研究倫理について講義した。
③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫 スライド・配布資料・課題を事前に、Google classroom にアップロードし、事前学習や復習に役立ててもらった。対面講義時には、事前配布のスライドを提示しながら学習効率の向上を行った。Zoom による遠隔授業においては、スライドを共有しながら双方向性の講義を行った。 ゲストスピーカーとして、①森 望氏（長崎大学名誉教授）に、「老・脳・寿：老いをみつめる脳科学」、②高野誠一郎氏（福井赤十字病院副院長）に「医療・ケアを求める人の倫理的問題をどのように話し合うか」、③渡邊 淳氏（金沢大遺伝診療部教授）に「生殖・周産期の遺伝倫理について」の特別講義を行った。 【ゲストスピーカー 3 人】
① 当科目名（単位数） 主たる配当年次等 研究基礎科学特別研究（6 単位 毎年開講）健康生活科学研究科（博士後期）1～3 年生（2025 年度）、オムニバス。
② 内容・ねらい 博士論文を作成するため、基礎となるコースワークをすすめながら研究課題を決定し、研究全体の計画を立案した。研究計画書、倫理審査申請書類を作成し、倫理委員会へ書類を提出し、承認後、計画に基づき研究を遂行する。研究結果をまとめ、博士論文を作成する。
③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫 対面と遠隔（メール、Zoom）を併用し、院生の負担も考慮し、効率よく学位指導を行った。
(2)その他の教育活動
内容 ＜非常勤講師＞ ・「加齢と老化」 福井大学医学部医学科 4 年生（2025 年度）オムニバス ・「研究デザイン特論」 福井医療大学大学院 1 年生（2025 年度）オムニバス

< 客員教授 >

・ 福井大学 高エネルギー医学研究センター、及び附属病院遺伝診療部

4. 研究業績

(1) 研究業績の公表	
① 著書	【0本】
② 学術論文（査読あり）	
1. Hintaro Fujii, Hiroaki Yaguchi, Akihiko Kudo, Katsuki Eguchi, Taichi Nomura, Yukihiro Hamada, Atsuki Hirai, Yuta Fukumoto, Yuko Yamagishi, <u>Makoto Yoneda</u> Autoimmune cerebellar ataxia with Kelch-like protein 11 antibodies in a large cohort study. Journal of Neurology 272(4) 282-282 2025.	
2. Mikako Ito, Zhizhou Huang, Kosaku Nomura, Masaki Teranishi, Fei Zhao, Hiroyuki Mino, <u>Makoto Yoneda</u> , Masashi Tanaka, Kinji Ohno Extremely low-frequency electromagnetic field (ELF-EMF) enhances mitochondrial energy production in NARP cybrids. Scientific reports 15(1) 24369-24369 2025.	
	【2本】
③ その他論文（査読なし）	
※1. 米田誠、松永晶子. 甲状腺疾患に伴う神経障害（橋本脳症を中心に）. 特集：内科医が見逃してはいけない治療可能な代謝性神経疾患. 内科学会雑誌, 2025. 114 巻第8号	
	【1本】
④ 学会発表	
1. Establishment of assay system for KLHL11 antibodies and results in autoimmune cerebellar ataxia. 藤井信太郎、矢口裕章、工藤彰彦、江口克紀、野村太一、上床尚、白井慎一、岩田育子、松島理明、田中恵子、 <u>米田誠</u> 、木村暁夫、濱田 征宏、福田 雄太、山岸裕子、永井義隆、矢部一郎. 令和7年5月21～24日, 大阪.	
2. 井川正道, 岡沢秀彦, 北崎祐樹, 上野亜佐子, 松永晶子, 森哲也, 牧野颯, 野上宗伸, 清野 泰, 小坂浩隆, 西山康裕, <u>米田誠</u> . PET によるアルツハイマー病患者の脳内アミロイド蓄積と酸化ストレスの関連の検討. 第44回 日本認知症学会学術集会. 令和7年11月21日, 新潟.	
招待講演	
1. 米田誠. 「橋本脳症と認知症」, 学術教育講演, 第44回 日本認知症学会学術集会. 令和7年11月22日, 新潟.	
	【3件】
⑤ その他の公表実績	
1. 米田誠. 「橋本脳症」を通して考える研究の動機・発想・方法・実装. 第13回研究デザイン論（公開セミナー）, 福井医療大学. 2025年7月11日, 福井市.	
	【1件】
(2) 科研費等の競争的資金獲得実績	
【学外】	
＜文科省科研費＞	
1. 自己免疫性脳炎における抗神経抗体のCBAに代わる新規迅速・定量的測定法の開発. 日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究(C). 分担（代表：松永晶子）	
2. 独居高齢者の社会的支援を介入した在宅運動のアドヒアランスとフレイルの予防改善効果. 日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究(C) 分担（代表：平井一芳）	
【学内】	
1. 令和7年度〔個人研究推進支援〕レビー小体型認知症に潜む治療可能な「橋本脳症」の実態解明と診断指針の作成 ―福井県の認知症診療の向上をめざして―（継続研究）. 代表.	

(3) 特許等取得
なし
(4) 学会活動等
1. 査読委員. 第 64 回日本神経学会学術集会, 大阪.
2. 査読委員. 第 35 回日本神経免疫学会学術集会,

5. 地域・社会貢献活動

①国・地方公共団体等の委員会・審議会（それぞれの名称、業務内容、担当期間） ①-2 福井県高次脳機能障害支援普及事業委員（平成 26～現在に至る） ②兼業規程で業務と見なされる範囲内での）企業等での活動 ・神経内科専門医が不足している地域における神経難病・認知症患者の診療による医療貢献（社団医療法人中村病院, 社団医療法人木村病院） ③その他 ・福井県てんかん談話会（世話人） ・福井県脳機能画像研究会（世話人） ・北陸神経内科談話会（世話人） ・中部老年期認知症研究会（世話人） ・神経科学研究会（世話人）[全国]

6. 大学運営への参画

(1) 補職
(2) 委員会・チーム活動
・人権擁護・倫理委員会委員（副部会長） ・利益相反審議委員会 委員長（学内） ・リポジトリ部会委員 ・衛生委員 ・保健管理センター（学校医） ・学生献血サークル「オープン・ザ・セサミ」顧問
(3) 学内行事への参加
(4) その他、自発的活動など